

平成28年度第2回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日時

平成28年10月19日（水） 午前8時57分から午後0時28分

2 視察場所

- (1) 東青梅市民センター
- (2) 中央図書館
- (3) 青梅市リサイクルセンター

3 出席者

[出席委員]

榎本晶夫委員	押切重洋委員	嶋崎雄幸委員
水村美穂子委員	菊池一夫委員	大住修司委員
浅見定由委員	永井寅一委員	布谷和代委員

[出席青梅市職員（中央図書館館長含む）]

池田副市長以下14名

4 議事概要

- (1) 副市長あいさつ
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 視察

- ア 東青梅市民センター
子育てひろば「おひさま広場」の状況等
- イ 中央図書館
指定管理の状況等
- ウ 青梅市リサイクルセンター
ごみ処理業務の状況等

5 主な質疑・意見等

○東青梅市民センター（子育てひろば「おひさま広場」の状況等）

東青梅および河辺市民センター子育てひろば事業の概要について説明【子ども家庭支援課】
《質疑》

[Q] 子育てひろばは学童保育とはどう違うのか。

[A] 学童保育は、主に学校の専用の施設を使って事業を実施しているが、子育てひろばは、あくまでも子育て支援の場の提供ということになる。

[Q] 子育てひろばの開設時間が午後5時まででは足りないという要望はあるのではないのか。

[A] 使われている方からのそのような要望は現在ない。

[Q] 学童保育に通っていて、子育てひろばに来るのは可能か。

[A] 可能である。子育てひろばは、自由に利用していただく居場所づくりという趣旨で設置している。

[Q] 子育てひろば事業に対して運営費の補助はあるのか。

[A] 運営費の補助については国、都、市で3分の1ずつ負担している。

[Q] レイアウトが幼児向きだが、児童が来たらレイアウトの変更はするのか。

[A] レイアウトはそのままである。

[Q] 児童がくる時間帯と乳幼児が来る時間帯は重なるのか。

[A] 平日は、ほぼ午前中が乳幼児の来る時間帯であり、学校終わりに寄るのが小学生の時間帯である。

[Q] 時間帯によって遊び道具等を入れ替えているのか。

[A] 入れ替えていない。

[Q] 子育ての相談等の資格をもった方の配置はしているのか。

[A] 子育ての相談等の資格に特化した方の配置はしていない。（注）ひろばには、保育士または、教諭の資格を有する者（同等者を含む）を配置している。

[Q] 子育てひろばで定期的に子育ての情報提供があるのか。

[A] 保育園の情報等のパンフレットを置いたりしているが、定期的な情報提供は特にな
い。

《意見・要望》

・手洗い場等をもう少し子ども目線で考えるのが大事だと思う。

・小平市のように遊戯の指導等をする人を青梅市も配置してはどうか。

○中央図書館（指定管理の状況等）

中央図書館の概要について説明【中央図書館管理課、中央図書館長】

《質疑》

[Q] 図書を購入する基準はあるのか。

[A] 青梅市図書館資料選定基準に基づいて、図書館資料を選定している。図書購入費については、いくら以上図書を購入するという額を年度協定で結んでいる。

- [Q] 入れて欲しい図書の要望はできるのか。
- [A] 各図書館でリクエストができる。
- [Q] 貸出点数を増やした他に、来館者数が増えた理由は何か。
- [A] 図書館の開館日が増えた、開館時間が朝10時から9時に早まったということがある。また、コーヒーの自動販売機を入れたのは1つのきっかけだが、気軽に図書館に足を踏み入れても良い施設とと思っていただけのようになったということも要因としてあるのではと考える。
- [Q] 男性トイレの段差について、木等の三角のものを置けば解消できるのではないか。
- [A] 清掃との関係もあるので検討していく。
- [Q] 児童がどのくらい来ているのか分かる資料はあるか。
- [A] 児童が何人というカウントはしていない。
- [Q] 駐輪場はあるのか。
- [A] 駐輪場はあるが、市の施設ではないので駐輪場が少ないというのは感じている。今後検討をしていく。
- [Q] 指定管理者として特に力を入れていることは何か。
- [A] 市直営時代のことをしっかり引き継いでそれを発展させていくことが1つ。それに加えて、一般のスタッフのいろいろな発想を大切に、それを形にできるような運営を心がけている。また、全国で400近くの図書館の運営に携わっており、他の自治体での成功例や反省点等を共有することによって、そのアイデア、発想を生かして青梅市版にアレンジして行うことができやすい環境にある。
- [Q] 行政として関与するということは、どのように考えているのか。
- [A] 公共サービスを担うパートナーという考え方をしている。今後は、指定管理者の評価を行い、お互いが言い合える体制をとっていく。
- [Q] 学校支援は、現在特定の学校のみだが、他の学校もやっていくのか。
- [A] まずは第四小学校、吹上中学校の2校をモデル的に支援させていただいて、今後は市と相談しながら広げていきたい。
- [Q] 学校支援は指定管理委託料の中で行っているのか。
- [A] 指定管理委託料の中で行っている。
- [Q] 同じ市の施設であるのに学校の図書館はなぜ別にやっているのか。
- [A] 基本的に学校図書館は公共図書館と区別している。ただし、読書推進の観点から、学校図書館を支援していきたいと考えている。

《意見・要望》

- ・子どもがより多く利用できるようにしないと、もったいないと思う。
- ・児童にとっては駐輪場がないということがネックになっているのではないか。

○青梅市リサイクルセンター（ごみ処理業務の状況等）

青梅市リサイクルセンターの概要について説明【清掃リサイクル課】

《質疑》

[Q] スプレー缶等で中に有害物等が残っているものはどのように処理しているのか。

[A] 処分できるものについては穴を開けて空にして処分をしている。それ以外の処分できないものについては、それらを処理できるところに委託等をして処理している。

[Q] 労働環境の配慮が不十分ではないか。例えばガラス瓶の処理などでは、すごい音がしているが、耳栓等の対策はとっているのか。

[A] ガラス瓶の処理のところはローテーションで作業し、長時間そこに携わらないように対応している。また、ゴーグルとマスクは着用している。

[Q] リサイクルショップの返品率は何割くらいか。

[A] 次回の委員会までに確認する。

[Q] この施設の課題、今後の処理費用等の削減策があれば教えてもらいたい。

[A] 市民の方にごみの選別をして排出していただいているが、まだごみの選別が十分なされていない状況もあるので、選別がさらに進めば処理時間の短縮等につながるのではないかと考えている。市民へのごみの選別の周知がひとつの課題と考えている。

施設については、老朽化が進んでいるため計画的な修繕が必要となっている。また、経費については、有価物はなるべく有価で販売をし、ごみ処理費用の財源に充てる等を進めていければと考えている。

[Q] リサイクルショップで売れ残ったものはどうするのか。

[A] 一定期間置いて売れないものは廃棄処理をしている。

[Q] 総資源化率は上がっているのか。（注）総資源化率：集めたごみの中からどれだけ資源としてよみがえったかを示す割合。

[A] 総資源化率は上がってきている。

《意見・要望》

- ・リサイクルショップは有機溶媒の臭いに対して、環境整備等の対策を行った方が良い。
- ・ペットボトルを地域や自治会等の資源回収で回収してはどうか。